

2025年3月16日（日）第二礼拝「主は私の羊飼い」詩篇23章1～6節

救いとは、イエス様との関係です。つまり、私たちが主として生きる生活を悔い改め、イエス様を私たちの主として受け入れることです。イエス様を信じる人の内には、イエス様の霊である聖霊様が住んでくださり、その人の人生を導いてくださいます。

第一番目、主は私の羊飼い。中東地方で、羊にとって荒野は命とりです。羊は目が悪く、飲み水や草を自ら探し出すことができません。ですから、羊飼いのいない羊は放っておくと死んでしまいます。イエス様はご自身を「良い羊飼い(牧者)」だと言われました(ヨハネ10:11)。良い羊飼いは、羊のためにいのちを捨てます。イエス様は私たちの罪の身代わりとなって死に、三日目によみがえられました。そのイエス様(羊飼い)が来られたのは、私たち(羊)がいのちを得、豊かに持つためです。私たちは死ぬべき運命から救われ、永遠のいのちを得たのです。「主は私の羊飼い。」と言ったダビデのように、私たちもまた福音を聞き、イエス様を私たちの羊飼いとして受け入れることで、イエス様との関係が結ばれるのです。

第二番目、私は、乏しいことはありません。これは、主だけが私たちの幸せであり、それ以上に求めるものがない、満足している状態です。お金の有無は関係ありません。主は私たちを緑の牧場やいこいの水のほとりに導いてくださいます。私たちが行くべき方向を間違ったとしても、主が正しい方向(義の道)に導いてくださるのです。羊飼いは、獣がやってきたら、むちで打ち、杖で羊を守り導きます。また、間違った方向に行ってしまった羊(固執のある羊)の首に杖をかけて守ってくださいます。出エジプトした民の四十年の荒野の旅路は、まさに死の陰の谷のようでしたが、主が雲の柱、火の柱で民を守り導かれました。敵は昼夜、私たちを告発してきます。その敵の前で主は私たちのために食事を整え、「わたしはあなたの友だ」と言ってくださるのです。ペテロはイエス様を三度も否認しましたが、イエス様は岸辺で魚を焼いて弟子たちのために朝食を用意し、ペテロに「あなたはわたしを愛しますか。わたしの羊を飼いなさい。」と言われました(ヨハネ21:15～17)。この時、イエス様はペテロに羊を飼うという使命(主の油注ぎ)を与えられました。イエス様はいのちをかけて私たちを探し、悔い改めに導いてくださいます。私たちが主の家に永遠に住むその日まで、主のいつくしみと恵みが私たちを追ってくるのです。ですから、私たちは乏しいことはありません。

第三番目、願いです。パウロがアグリッパ王の前で伝道した時、パウロは「ことばが少なかりょうと、多かりょうと、私が神に願うことは、あなたばかりでなく、きょう私の話を聞いている人がみな、この鎖は別として、私のようになったださるることです。」と言いました(使徒の働き26:28～29)。これはイエス様に出会い、福音伝道者へと変えられたパウロの真実な告白です。パウロはイエス様に救われた喜びに満たされていたのです。これ以上ない幸せを、周りにいる全ての人たちに分かち合いたい、そのような願いを持って、パウロはイエス様の福音を語り続けたのです。同様に、これは私たちの願いでもあります。イエス様に救われた喜びと幸せを周りの人たちに伝えていきましょう。アーメン！